

基本政策

1	タイトル	以前から委員の皆さんから、緑地や雑木林が多い新座市の特徴が十分に示されていないという意見がありました。私も同感です。本文の後半に緑地に関する記載がありますが、より明確に緑が多い自然環境を生かすことを明示すべきと考えます。したがって、表記については以下のように変更するのがいいと考えます。 修正案：「緑豊かでやすらぎと利便性が共存するまち」
2	本文	1段落目に「自然」という言葉があり、主に新座の特質は「自然」と「利便性」だと思われているのではないかと考えています。そのため「自然と利便性が共存するまち」と題し、だからこそやすらぎがあるとされた方が良いなと思いました。
3	本文	2段落目の「新座市の魅力や価値を高め」という言葉が印象的でした。新座市は自然だけでなく、ふるさと新座館といった地域の安らぎの場、外部の人でも楽しめる場があります。これからも、その魅力や価値を私自身より感じたいと思いました。
4	本文	2段落目を以下のように修正するのがよいと考えます。 「このため、地域ごとの特性に応じながら、緑豊かな新座市の魅力や価値を高め・・・」
5	本文	3段落目の「公共交通の更なる可能性を追求」ということに、強く共感しました。新座市を歩いていると徒歩の人だけでなく、自転車の人や多人数でバスやタクシーの列に並ぶ人を多く見かけます。そのため、公共交通機関は重要だと思います。
6	本文	4段落目に「公園の充実や緑地の保全」とありますが、緑地は保全に加えて、充実させていくことも必要ではないかと考えました。実際に大学周辺は田が埋め立てられコンビニができるといった利便性とひきかえに緑地もなくなってしまう気がします。
7	本文	新座市は柳瀬川、黒目川など川と身近な市の印象があり、川の氾濫が心配でした。本文で、「豪雨等の発生時も想定した」という言葉が記載されていて安心しました。
8	本文	「身近に自然を感じながら」とあることからすると、3・4段落目は「道路・公共交通網・河川・上下水道」という基本的なインフラと「公園・緑地」にグルーピングしてもよいかと考える。
9	本文	地球温暖化に伴う自然災害が頻発している今日、いかに地球環境への負荷を小さくするかは都市空間の作り方を考える際に欠くことのできない視点です。素案で触れている公共交通の充実や緑地の保全も、市民の快適性や利便性という視点からだけでなく、地球温暖化対策の視点からも重要な政策です。「やすらぎ」「快適」「利便性」に加えて、「低炭素」、あるいは「持続可能性」というキーワードを加えていただけませんか。
10	本文	ユニバーサルによるまちづくりの推進。すべての人にやさしいデザインは大変なことですが、人のこころも優しくなるような配慮がとり入れてもらえたら嬉しいです。
11	本文	基本政策4の分野かも知れませんが、やすらぎと利便性が共存するまちの前提として「安心、安全」なまちがあると思います。市民の憩いの場として、公園、緑地などがあるのは理解できますし、豪雨発生時の施設整備も大切。しかし、大地震、地球温暖化による超大型台風、熱中症の多発など、出来る限り「空間」を残す行政努力も必要と思います。何処かにこうした文言を入れた方がベターかと。コロナ対策としても「空間」は必要です。
12	施策領域	施策領域の中の「河川・水路」というのは、本文で示されていないため、憩いの場や緑地か、また、水の供給なのかといった、具体的なものか分かりませんでした。本文の中でも河川・水路という言葉があると分かりやすいかなと考えました。

施策領域「都市計画・景観」を「都市計画」へ修正することについて

1	施策領域	「景観」も都市計画の一環ではあるが、他の区分も都市計画で済んでしまう。市民意識調査によれば、「(4)新座市のイメージ」で「イメージの薄いありふれたまち」と感じている市民が一定程度いることからすると、景観にも配慮したまちづくりに力を入れ、若い世代にも「住んでみたいまち」のイメージを発信していくことも求められるのではないか。独立した項目を設けて今ある諸制度を活用しながら市民等に発信していくことも必要ではないでしょうか。
2	施策領域	ご提案の通り「都市計画・景観」を「都市計画」に修正することに賛成します。
3	施策領域	1. 施策領域名を「都市計画」に修正することについて→ 妥当だと思います。
4	施策領域	都市計画・景観を都市計画と修正することに異存なし

テーマI 都市計画・景観

1	現況と課題	3つ目や[主な施策展開](3)で記されている「まちづくり」という言葉が他の文と比較すると抽象的に思えました。景観づくりや整備を市民と共に行うことを「まちづくり」であれば、他の文のように具体的なものがいいかと思いました。
2	施策1(1)	2行目に安全で快適な歩行空間や自転車通行空間の確保と大変いい表記があります。前述したように空間は環境の向上以上に防災、コロナ、地球温暖化対策でもあると思います。こだわりますが、ここにそのことを加筆した方がもっとよくなると思います。
3	施策1(1)	良好な都市基盤をいかしつつ～、良好な空間の形成を～のところが気になりました。にぎわいや安全性、快適性が良好な空間というのは分かるのですが、良好なというのが抽象的な表現にも聞こえるので、他の言葉を代用するか良好なを入れなくても良いのかなと思いました。
4	施策1(1)	「住居系市街地」に対する施策が具体性に欠けています。例えば、商業系市街地に対し「安全で快適な歩行空間や自転車通行空間の確保」を掲げていますが、これは「住居系市街地」でも重要な施策です。
5	施策1(2)	「第2章 新座市の現況」で人口が減少していくことを予測しながら、調整区域の区画整理など、もっばら新市街地開発の方針しか示していません。むしろ都市のコンパクト化の方針を打ち出す必要があるのではないのでしょうか。
6	施策1(2)	快適に暮らし続けることが大切なことですが、土地の有効な利用などは所有者との話し合いが大切だと思います。都市高速鉄道12号線などはお金のことも思うので、子供につけを押しつけない方法なども考えないと思います。
7	その他	都市構想の項目に今後問題となるであろう空き家について、取り上げるべきではないか。

テーマⅡ 道路

1	施策1(1)	道路環境の改善の説明書きの部分ですが、交通手段と歩行者の順序は逆の方がよろしいかと思います。
2	施策1(1)	歩行者に対する施策として「道路の拡幅や歩道の確保を計画的に進め」とあります。しかし道路を拡幅すること自体は、かえって車がスピードを出すようになりますから、歩行環境の改善にはつながりません。歩道の拡幅に加えて、ハンプ等、交通静穏化のための手法を取り入れていくことを目指すべきではないでしょうか。
3	施策1(1)	自転車に対する施策として「自転車歩行者道を整備するなど」と述べています。自転車歩行者道、つまり自転車に歩道を通行させる手法は、歩行者にとっても自転車利用者にとってもけって快適・安全なものではありません。したがって国土交通省と警察庁が示しているガイドラインでも、極力自転車は車道を通行させる方向に変わってきています。ここは「自転車歩行者道」ではなく、「自転車道」とすべきではないでしょうか。
4	施策1(1)	車道・歩道・できれば自転車道があったらいいと思います。高齢者が増えていく中で安心して歩けることが大事だと思います。
5	施策1(1)	歩行者の安全性～自転車・車イス（もしくは段差解消）の利用にも配慮した整備に努めます（一番上の段に障がい者などとあるので）
6	施策1(1)	車イス走行のアプリ作りの付添に参加させていただいております。車イスに自分も乗り、走行したりします。たとえ1cmの段差もストップしてしまい、思った以上に傾斜が大変です。品川駅は駅員さん4人で1人100件スロープ出しをするそうです（電車とホームの間）。これから外出で車イスは多くなるでしょう。ですので、自転車とあわせて車イスも考えてバリアフリーを頑張ってくださいたいです。
7	施策1(2)	「東久留米志木線について整備に向けた検討を進めます」については、既にかかなりの部分が開通する中で、これから着手するような表現ではなく「整備完了に向けた検討」又は「全線開通に向けた検討」とすべきではないでしょうか。
8	施策2(1)	大学までの道のりや市役所までの道を歩いているとコンクリートが割れていたり、自転車が多かったり点が気になっていました。そのため「老朽化の対応」「安全性の確保」が記されていたので、非常に安心しました。

テーマⅢ 公共交通網

1	施策1(2)	鉄道の利便性を高めるためとありますが、「市民」の利便性が大事なので、表現を変えた方がいいと思います。
2	施策1(3)	新座市を歩いていると車の多さに驚きます。一方、バスの普及や運行本数の少なさに驚く場面がありました。本文にあるようにより一層バスの普及を図り、新座市民が公共交通網を利用し、環境問題に取り組むことが大切だと思います。
3	施策1(3)	新座駅近辺から市役所またはひばりヶ丘・東久留米方面への移動手段の利便性が低いと感じている。
4	施策1(3)	通勤には早くが望まれますが、外の景色をゆっくり見られる交通網も必要だと思うのです。忙しすぎてイライラする人が増えているような気がします。
5	施策1(3)	にいバスの利用について「こぶしの森」に通所している人達が多い時で17名の人に乗ります。色々な人達に乗るので大声を出したりしますが、運転手の方が静かに見守ってくださっています。心のバリアフリーの見本のようで安心して利用させてもらっています（市民の方も同じです）
5	施策1(4)	新座総合体育館を活用して市民の健康を守るために専用バスやにいバスを体操時間に合わせて、ひばりヶ丘から新座駅に行く手段、同じ市内で不便
5	施策1(4)	バリアフリー化の推進→車イス用トイレ

テーマⅣ 公園・緑地

1	現況と課題	トイレとベンチの確保も入れてほしい
2	現況と課題	3番目4番目で市民ボランティアとの連携、協働という言葉がありましたが、私はボランティアの方だけに限らず、一般市民からの協力が必要だと思います。市民が使うことから「市民の協働」という言葉があると良いと考えました。
3	施策1(1)	平林寺や妙音沢周辺といったせっかくの資源が現時点ではうまく活用できていないように感じる
4	施策1(1)	新座市には調整区域内のみならず、市街化区域内にも多くの農地が残っているはずですが、これら農地に対する施策が全く示されていません。都市内農地には温暖化の結果として今後ますます起きてくるであろう自然災害に対する、緩衝機能もあります。保全していく方針を明確に掲げるべきではないでしょうか。
5	施策2(1)	新座総合体育館
6	施策2(1)	具体的な場所になってしまいますが、野寺公園のトイレは簡易式トイレです。わくわくセントラルパークのようなトイレがあると、あの公園は小さいながらも行きやすい場所で、お年寄りから子どもまでたくさんの方が遊びに来たりベンチで話をしたり、季節になると小学生のランニングスタート地点になったりします。絶対数がかなり多いかと思います（利用数）。
7	施策2(1)	総合運動公園の整備に加え、長年の懸案で土地取得も進んでいるとお聞きしている道場公園（トンボの里公園）の整備も加えたらいかがでしょうか。
8	施策2(2)	公園にはトイレは必要です。緑地は確かに減っています。旧くるみの木の周りには「きじ」が夫婦で生活していたのに…と思うと淋しいです。
9	施策2(2)	(2)子育て世代と年配の方との融合

テーマⅤ 河川・水路

1	現況と課題	遊歩道のベンチ・親水護岸の整備等。黒目川→落合川からひの橋までの右岸にベンチがいくつかありますが、人がよく座って休憩、会話しております。
2	施策2(1)	柳瀬川もかなり整備されてきたので安心ですが、きれいに保つことが大切です。水路はふたをされているので近所では見られませんが、市役所前の野火止用水はもっときれいにならないか？と通る度（みる度）に思います
3	施策2(1)	災害に備えた治水対策だけでなく、「水辺に親しめる環境づくり」についても記載されており、非常に嬉しく感じました。私も柳瀬川に行ったことがあります。歩きやすく散歩している人も多く、魅力的な場所でした。多くの方が川に親しんで欲しいです。

テーマⅥ 上水道・下水道

1	施策1(1)	新座市の水道については、あまり身近ではありません。ただ、暖冬やダム貯水の少なさが目立つ現代では、節水意識の高揚が必要だと思います。節水意識の強調が大切だと思います。
2	施策1(2)	豪雨も心配ですが、水不足も又課題です。以前雨水タンクの補助金がありましたがとても良かったと思います。
3	施策2(2)	美味しい水がいつでも飲める幸せ。下水道が私の住んでいる所ではしっかり出来ているので、みんながこんな生活になればと思います。完備されて（下水道）いますが、溢水対策は必要で、強い雨が降り続くと心配な所があります。